

行することによって除草体系が成立っている。
要するに、陸稲とイネ科雑草の選択性がとくにたかいこと、降雨、気象条件の変動に対してきわめて安定している薬剤の開発がとくに望まれる。

さつまいも作にとっては、CAT, PCP, MUPC（鹿児島）などが奨励除草剤となっているが、かんしょの生育が急速であると、その後畦を敝って陸稲ほどの雑草害はないことから、除草剤利用の要求度はそれほど強くない。体系としては、上記除草剤の使用と中耕、手取、培土等が行なわれている。

4. その他

桑園、茶園、林地などでの除草剤の必要性はあるが、未だ普及は著しくない。果樹の下草除去剤としては、Paraquat, DCPA・NAC等がかなり使用されはじめており、これらにつ

いては残留蓄積による樹木への影響という点を明らかにすると共に、その開発、利用を考えてゆかねばならぬであろう（第8表）。

第8表 九州における永年樹木地の除草剤

区 別	除 草 剤
果 樹 (主におみかん)	Paraquat, Diquat, DCMU, DCPA・NAC, プロマシル
桑 園	DCMU, DPA, PCP, Paraquat
茶 園	DCMU, CAT
林 地	2,4-D, 2,4,5-T, 2,4-D+ATA

九州地方の除草剤利用の現状と問題点について、要点となるところに触れてきたが、九州は環境的にも雑草害が最も大きいと推定される地域であり、問題点を解決するための薬剤の開発、使用技術の改善は勿論必要であるが、除草剤利用の効果の啓蒙という教育の場の拡張も必要であろう。

昭和43年度果樹・特作関係

除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和43年度果樹・特作関係除草剤・生育調節剤の適用性判定試験成績検討会は、果樹園関係が1月25日、茶園関係が2月22日、桑園関係が2月24日、林地関係が2月26日に開催された。

1) 供試除草剤の動向

昭和40年度から43年度までの間に、供試された薬剤数を示すと、第1表の通りである。

<第1表> 年次別供試薬剤数の推移

	昭和 40年度	41	42	43
果				
ミカン	17	20	13	13
リンゴ	17	10	10	6
樹				
その他	14	7	6	2
茶				
園	—	6	5	4
桑				
園	7	5	7	8
林				
地	1	2	2	1

2) 試験結果の概要

供試された薬剤の成分を示すと、〈第2表〉
の通りである。これらの薬剤に対する判定結果

については、〈第3表〉に掲げた。なお、実用
化の認められた薬剤の使用基準については、
〈第4表〉に掲げた。

〈第2表〉 供 試 薬 剤 成 分 一 覧 表

(1) 果樹園関係

(※生育調節剤)

施 対 象 作 物	薬 剤 名	剤 型	有 効 成 分 お よ び 成 分 含 有 率	委 託 会 社
1 ミ カ ン	ゲ ザ パ ッ ク ス 25	乳	2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6- イソプロピルアミノ-S-トリアジン 25%	日 本 化 薬
	ア フ ァ ロ ン	乳	3-(3,4-ジクロロフェニル)-N'- メトキシ-N'-メチル尿素 20%	ク ミ ア イ 化 学
	S K - 4 3 1	液	シクロヘキサン誘導体 20%	三 洋 貿 易
	S K - 4 3 2	乳	(DCPA) 3,4-ジクロロプロピオンアニライド 30% (CMP) 0,0-ジエチル-S-(2,5- ジクロロフェニルチオ)-メチル ホスホロジチオエイト 7%	三 洋 貿 易 日 本 化 薬
	T M W - 6 8 6 8	液	D C P A 35% 新規有機除草性化合物 %	ク ミ ア イ 化 学
	N H - 8 1	乳	{ D C P A 有機化合物 40%	日 本 農 薬
	メ オ ダ ッ ク	乳	DCPA; 前 掲 25% MPMC; 3,4-ジメチルフェニル-N- メチルカーバメイト 5%	住 友 化 学
	S T I N - 3 0	乳	D C P A 30% T W - 1 0 0 15% N A C 5%	ク ミ ア イ 化 学
	C Y P R O M I D	水和	3,4-ジクロロサイクロプロパンカルボキシ アニライド 50%	東 陽 通 商
	F - 8 2	粒	有機弗素系化合物 10%	ダ イ キ ン 工 業
	ブ ロ マ シ ル	粒	5-プロム-3-sec-ブチル-6- メチルウラシル 2.5%	丸 和 物 産
	D B N (カソロンG)	粒	2,6-ジクロロベンゾニトリル 6.7%	ク ミ ア イ 化 学 北 興 化 学
	パ ラ コ ー ト (濃厚少量)	液	D C M U パラコート+リニュロン プロメトリン	I C I 武 田 薬 品 工 業 日 本 農 薬
2 リ ン ゴ	C Y P R O M I D	水和	ミカンの項参照	東 陽 通 商
	メ オ ダ ッ ク	乳	同 上	住 友 化 学
	D B N (カソロンG)	粒	同 上	ク ミ ア イ 化 学 北 興 化 学

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および成分含有率	委託会社
2 リンゴ	ゲザバックス 25	乳	ミカンの項参照	日本化学
	アフアロン S	乳	同上	クミアイ化学
	バラコート (濃厚少量)	液	同上	I C I 武田薬品 日本農薬
3 モモ	A D (ボミカル)	水和	D C M U 37.5% A T A 37.5%	石原産業
	D B N (カソロン G)	粒	ミカンの項参照	クミアイ化学 北興化学

(2) 茶園関係

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および成分含有率	委託会社
茶園	トリフルラリン (トレファノサイド)	乳	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-4,5-ジプロピル-1H-1,2,4-オキサジアゾール-3-カルボキシ酸ナトリウム塩 44.5%	シオノギ製薬
	T O 2 (セレクト)	水和	チアゾール誘導体 50%	三井東圧化学
	※ アルギット	粉	ノルウエー産 海草粉末	神協産業
	※ G 431	液	未公開 1%	日産化学

(3) 桑園関係

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および成分含有率	委託会社
桑園	N I P	微粒	2,4-ジクロロフェニル-4'-ニトロフェニルエーテル 5%	三洋貿易
	ゲザバックス 25	乳	2-メチルチオ-4-エチルアミノ-6-イソプロピルアミノ-S-トリアジン 25%	日本化学
	トリフルラリン (トレファノサイド)	乳	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N,N-ジプロピル-1H-1,2,4-オキサジアゾール-3-カルボキシ酸ナトリウム塩 44.5%	シオノギ製薬
	M & B 9057	液	メチル-4-アミノベンゼンスルホン酸ナトリウム塩 40%	シオノギ製薬
	K P	粒	PCP-Na 15% DCMU 1%	三井東圧化学
	※ エクベロン (-L, H, W)	液・粉	インドール酪酸	シオノギ製薬
	※ G R 24 (ジョンカラー)	水和	2,3,5-トリヨード安息香酸ソーダ塩 45%	兼商
	※ N C O (ニュクリン)	液	界面活性剤	愛岐共販

(4) 林地関係

対象作物	薬剤名	剤型	有効成分および成分含有率	委託会社
林地 (床替床)	トリフルラリン (トレファノサイド)	乳	茶園の項参照	シオノギ製薬

＜第3表＞ 昭和43年度 果樹園・茶園・桑園・林地関係
除草剤・生育調節剤試験実用化判定一覧表

(※生育調節剤)

区分	実用化	実用化と継続	継続	継続?	中止
(1) 果樹園 1) ミカン	STIN-30 パラコート (少量濃厚散布)	ゲザバックス乳剤 25 メオダック プロマシル粒剤 SK-432	アフロン乳剤 TMW-6868 NH-81 CYPROMID F-82		SK-431
2) リンゴ	メオダック パラコート (少量濃厚散布)	DBN ゲザバックス乳剤 25			CYPROMID アフロンS
3) モモ	AD水和剤				
4) ブドウ			DBN		
(2) 茶園			トリフルラリン乳剤 TO-2 ※アルギット ※G-431		
(3) 桑園		ゲザバックス乳剤 25 トリフルラリン KP粒剤	M&B 9057 ※NC ※エクベロン ※GR-24	NIP微粒剤	
(4) 林業苗畑		トリフルラリン			

＜第4表＞ 実用化薬剤使用基準一覧表

区分	薬剤名	処理方法	処理時期	使用量 製品 10a当り	備考
(1) 果樹園 1) ミカン	ゲザバックス乳剤 25	雑草処理	—	1～1.5ℓ	{ 暖地における使用法の 検討

区 分	薬 剤 名	処 理 方 法	処 理 方 法	使 用 量 10a当り	備 考
(1) 果 樹 園 1) ミカン	SK-432 乳剤	雑草処理	夏草；雑草20～40cm	2～2.5ℓ	乾燥時は注意する 加圧噴霧機使用
	メオダック 乳剤	雑草処理	夏	2～3ℓ	乾燥時は注意する
	STIN-30 乳剤	雑草処理	夏 草	1.5～2ℓ	
	パラコート 液剤	雑草処理	草丈30cm以下	{ 水量 60ℓ 薬量 300mℓ	パラジェット使用 1Kg/cm以下の低圧散布
	プロマシル 粒剤	雑草処理	梅雨明け直前 (雑草生育期)	10～15Kg	散粒機又は手まきで、均一に散布
2) リンゴ	メオダック 乳剤	雑草処理	夏	2～3ℓ	
	パラコート 液剤	雑草処理	草丈30cm以下	{ 水量 60ℓ 薬量 300mℓ	{ パラジェット使用 1Kg/cm以下の低圧散布
	D B N 粒剤	土壌処理	春 草	8～12Kg	雑草が小さい時
	ゲザバックス 乳剤	雑草処理	—	1.5～2ℓ	
3) モ モ	A D 水和剤	雑草処理	雑草生育期	200～400g	
(2) 桑 園	ゲザバックス 乳剤 25	雑草処理	春～夏	500～700mℓ	洪積土に限る
	トリフルラリン 乳剤	土壌処理	春～夏	{ 本畑 300～400mℓ 苗ほ 200～250mℓ	
	K P 粒剤	土壌処理	夏切後	10Kg	洪積土に限る
(3) 林 地 ・床替床 ・まきつけ床	トリフルラリン 乳剤	土壌処理	・播種前 ・床替前	0.3～0.4cc/m ²	処理後、混層処理をする と効果大

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

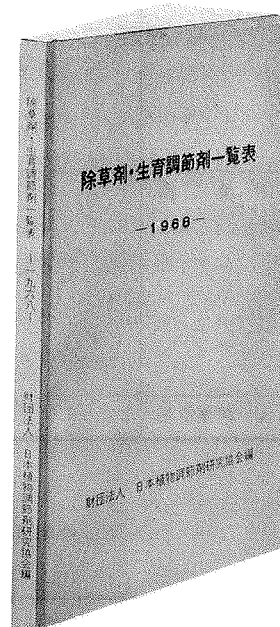
除草剤・生育調節剤一覧表増刷版 好評発売中

農薬の開発研究に従事される方・農薬の試験研究に従事される方・
農薬使用の指導・教育に従事される方は、ぜひ座右にお備え下さい。

規 格 B5判 70Kg特上質紙使用 装 幀 グリヤボード特別製本
頁 数 本文172頁、索引32頁 頒布価格 700円(送料別)

本書の特徴

- ☆ 現在登録中の除草剤・生育調節剤および過去において試験された除草剤・生育調節剤などすべて収録してある。
- ☆ 除草剤・生育調節剤の名称・有効成分・構造式・物理性状・製剤形態・毒性作用性・用途・関係メーカーその他を一覧表として編集。
- ☆ 除草剤については18分類、生育調節剤については9分類し、ひと目でわかるようにしてある。(24頁参照)



発行所 植調編集印刷事務所
東京都豊島区池袋7丁目2040番地 TEL(986)1063番